

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071101846		
法人名	有限会社 であい		
事業所名	であいの郷 長住		
所在地	福岡市南区長住6丁目7-29 〒 811-1362 (電話) 092-512-2562		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年2月2日	評定確定日	平成21年3月4日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 8 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤 3 人	非常勤 8 人 常勤換算 5.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての～		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000～40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(100,000 円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日あたり		1,100 円程度	

(4) 利用者の概要(1月8日現在)

登録人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護 1	1 名	要介護 2	0 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	1 名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 88 歳	最低 77 歳	最高	94 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かめい内科クリニック、前田歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者と一緒に継続的にかかわりながら、最後を看取れる場所として、住宅地の中の一軒家を改築して開設されたホームである。入居予定の利用者の生活歴や背景等を全職員が把握し、スムーズな会話を通じて新規利用者の孤立感を生まないような取組みが行われている。また、入居が決まったら、自宅の自室に近い家具の配置に配慮し、精神的に落ち着く生活環境づくりに取り組むなど、利用者の精神面を考慮した支援が行われている。日常のかかわりの中で利用者本人の意向や希望の把握に努め、本人の意思が不明確な場合には、家族と職員との話し合いを通じて検討し、本人にとってプラスとなる要素を引き出し、一人ひとりの充実した生活が継続して送れるように介護計画書に反映させて支援を行うなど、常に、利用者の目線に立った取組みがなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を受けて、記録の書き方の改善に取り組むなど、職員の意識の向上への取組みが見られる。また、利用者の希望の実現に向けての取組みなどの成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、職員の意見を聞きながら記入するなど、職員全員が自己評価にかかわっての取組みがある。この過程において、運営推進会議やセンター方式への取組み方法について検討するなどの成果が見られる。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、男女共同参画の世話人、地域包括支援センター職員、家族等の出席のもと、年に6回の開催がある。運営推進会議では、利用者状況の報告、ホーム行事の計画と報告、地域行事のおさそいを受けるなどの情報交換の場となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時や家族会時の声かけ、「通信」及び担当職員による手紙の送付などを通じて、意見や要望を表出しやすい雰囲気づくりへの取組みがある。出された意見や要望については、その場で回答したりミーティング時に協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 公民館行事への参加、校区運動会の見学、日常の買物や庭掃除、散歩時等の挨拶、地域のお世話係をされている方の来訪など、自然な形で地域交流への取組みがある。また、中学生の職場体験の受け入れを行うなど、地域連携に努めている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時の理念をそのままに、地域社会 から孤立しないことを意識した理念をつくりあ げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時、日々の業務中など、職員間 で常に理念を意識したケアへの取組みがある。 また、理念の内容を介護計画書に反映させるな どの取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	公民館行事への参加、校区運動会の見学、日 常の買物や庭掃除、散歩時等の挨拶、地域のお 世話係をされている方の来訪など、自然な形で の地域交流に努めている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果を受けて、記録の書き方 の改善に取り組むなど、職員の意識の向上への 取組みが見られる。今回の受審にあたり、職員 の意見を聞きながら記入するなど、職員全員が 自己評価にかかわっての取組みがある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につい て報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	町内会長、男女共同参画の世話人、地域包括 支援センター職員、家族等の出席のもと、年に6回 の開催がある。運営推進会議では、利用者状況 の報告、ホーム行事の計画と報告、地域行事の おさそいを受けるなどの情報交換の場となっ ている。		運営推進会議等を利用して、成年後見制度 や人権学習等の情報発信、非常災害時の相互 連携など、地域とのかかわりがより深くなる ような取組みを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加がある。また、亡くなった後の遺骨の取り扱いについて相談を行うなど、利用者の家庭状況に応じて様々な相談や情報交換が行われている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	職員一人ひとりに対して、話題が上がった時に説明を行っている。家族背景に考慮して、必要と思われる家族に対してのみの説明がある。全利用者・家族、地域にむけての説明等は未実施である。		運営推進会議等を利用して、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるような支援と、職員が一層の制度の理解を深めることができるような取り組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度の「通信」や担当職員による手紙の送付、家族の面会時や家族会時などを通じた利用者の暮らしぶりや状況説明が行われている。また、介護支援専門員が記入している記録や日々の支援経過記録を提示しての報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会時、その都度の連絡、「通信」の送付など、意見や要望を表出しやすい雰囲気づくりへの取り組みがある。出された意見や要望については、その場で回答したりミーティング時に協議するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の欠員時は法人内での異動あるが、職員についての異動は無い。系列のデイサービスを利用するなど、利用者との顔見知りの関係が出来上がっている。新しい職員が入職した場合は、利用者と主体的に接するなど、利用者馴染みの関係を築く為の取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用はグループホームで行っており、募集・採用に関して、何らの制限は設けていない。料理の得意な職員、歌が好きな職員など、職員は自分の役割をもって日々業務にあたっている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症高齢者の人権や高齢者の虐待問題等を通じて、人権教育や啓発活動への取り組みがある。		職員の意識を喚起する意味において、行政等の講話会に参加したり、運営推進会議時にテーマを取り上げるなど、定期的・継続的な人権教育・啓発活動への取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の勉強会への参加、ホーム内でのミーティング時を利用した勉強会の実施がある。外部で行われる研修や勉強会への取り組みは、今後の課題である。		今後、計画立てた外部研修参加の充実を図り、外部で学んだ知識を他の職員へ周知し共有する場として報告会を開催する等の取り組みを期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域や様々な事業所の連携の下、地域で地域を支えていく“おたすけ隊”(「ふれあい会・長住」)への管理者の参加がある。今後、職員一緒に参加し、様々な事業所との情報交換や連携に取り組んでいく予定である。		今、予定されている“おたすけ隊”への一般職員も含めた参加をきっかけに、他の事業所との職員同士の情報交換や相互見学などを通じたサービスの質の向上への取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や体験入居を通じて、顔なじみの関係を構築するように努めている。また、職員が入居予定者の生活歴や背景等を把握し、スムーズな会話を通じて、新規入居者の孤立感を生まないような工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	踊りや歌を教えてもらったり、テーブルの拭き方、食事時の姿勢、訪問者への配慮など、日常のあらゆる場面から学ぶ姿勢が伺える。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通じて利用者本人の意向や希望の確認を行い、本人の意思が不明確な場合には家族と職員との話し合いを通じての把握がある。把握した意向や希望は、センター方式を活用して情報共有するなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ミーティング時に他の職員と協議し、計画作成担当者がモニタリングシートに記入して職員の意見を取りまとめたの作成がある。介護計画の説明時に、家族の意見を聞き、再度介護計画を作成し直すなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	3ヵ月毎及びその都度の状態変化に 応じて介護計画の見直しがある。毎 月のミーティング時、利用者一人 ひとりについて、自立支援に向けた かかわりを意識した確認・協議が 行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能 性を活かした柔軟な支援をして いる	利用者・家族を交えての一泊温 泉旅行、商店を巻き込んでの買 物時の自立支援、外食支援など、 利用者の希望にそった柔軟な支 援がある。また、近隣住民から 耳が遠い高齢者との会話の 方法を訊ねられるなど、近隣 住民の問いにも答えている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	ホーム協力医の利用か、今 までのかかりつけ医の利用か については、本人・家族の希 望によりどちらでも可能であ る。ホーム近くのかかりつけ 医や専門医療機関の受診は、 ホーム対応にて可能である。 受診先で家族と待ち合わせる など、その時々 の状況にそった支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	「医療についての希望書」、 「看取り介護についての同意 書」を作成し、全利用者に 意向の確認を行っている。ま た、ホームとしての看取り の指針を作成し、利用者の 意向に沿う支援に向けて最 善をつくすための取組みが ある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者の反応の良い呼称を用いたり、利用者 がつけたニックネームで職員を呼び合うなど、 利用者の意見を尊重した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者の性格や習慣、個々のリズムを把握 し、利用者一人ひとりのペースに配慮しての ゆったりとしたケアが見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食事の配膳や下膳、テーブル拭き、食器拭き など、出来る範囲で利用者と職員が一緒に協力 しながら行われていた。利用者、職員共にテー ブルを囲み、互いに会話が弾むなど、賑やかな 食事風景であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	16時～19時ぐらいの間で、入浴するタイミン グや時間、回数など、全て利用者の希望に沿っ た支援が行われている。意思が不明確な利用者 については、表情や状況を見ながらの入浴支援 がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	買物、庭掃除、散歩、洗濯物たたみ、折り 紙、系列のデイサービス利用、カーテンの開閉 など、利用者一人ひとりの生活歴を把握し、介 護計画書に反映させての個別支援が行われてい る。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	家族共々の一泊温泉旅行、日々の散歩や買 物、コスモス見学、外食など、機会を見つて の外出支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中、ホーム出入り口は開錠されており自由 に出入りできる。外出傾向の強い利用者に対し ては、周辺症状の要因（外に出る目的）につい て職員と協議して、一緒に出かけるなどの対応 を行う予定である。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消火訓練や避難手順のシミュレーションを行 うなどの取組みがある。緊急時、近隣の協力を 得るための働きかけはこれからである。		運営推進会議の場を利用して、避難訓練へ の参加協力の声かけや緊急連絡網の整備な ど、非常災害時に地域の協力が得られるよう な働きかけを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の希望を取り入れた献立作成である。 献立の内容は、カロリー、栄養バランス、見た 目に配慮されている。キザミやトロミをつけ たり、食器を入れ替えるなど、利用者にあわせた 支援が見受けられた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のADLの低下に合わせて、以前は和室 であった共有スペースをフローリングにすること により、安全に移動でき、自由にゆっくりと 過ごすことができるなど、快適な空間となっ ていた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、写真や仏壇などの思い出の品や ベッドや家具などの使い慣れたものが持ち込ま れており、ゆっくりと安心して過ごせる居室と なっていた。		

■ は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号